

## 第186回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」開催

令和2年を迎えました。世界情勢は、昨年来の米中貿易紛争、中東における米国 vs イラン抗争が不穏な空気の中にあり、また年末になって、日本では保釈中のニッサン元会長ゴーンのレバノンへの不法出国という、言わば「自己ファースト」というか、手前勝手なゴリ押しを通そうとしています。かくした問題は、私たちの手には負えそうにもありませんので、横目で見ていくことにしましょう。そして、私たちはひたすら健康に留意し、元気に明るく「元気に百歳」クラブのサロン活動として、俳句サロン「道草」で俳句作りを楽しもうではありませんか。

新年1月8日、「新橋ばるーん204号室」に元気に顔を出された方は、住田先生をはじめ芦川創風さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、中島懂岳さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、自然の11名です。今日も明峰さんが買って来て下さった銘菓「黒松」と、一光さんの旅行土産の差し入れがありました。お二方様、有難うございます。さあ皆さん、今年も奥深い俳句の妙味をじっくりと味わいましょう。

開講に先立ち住田先生は、配布して下さった資料の中の「新年詠の詠み方」と「句会の開き方」を題材になさって、昨年の行田市での合同吟行句会で経験しました結成句会の在り様を例に、「句会のしきたりやフォローアップのきめ細かさ」など、その違いを説明して下さいました。新年早々の句会です。

住田先生が、「今月はお正月ですから」と仰って、本日の席題を下述の通り提示されました。私たちは一瞬にして、静かな句作りの世界に没入していきました。三つの席題に沿い、皆さんが詠まれ、提出された三句の中から、皆さんが選句され、最終的に天賞句と最多得票賞（☆印）の栄に輝いた句は、次の通りです。

### 席題1. 「羽子板」

- |                  |    |      |
|------------------|----|------|
| ◎『羽子板の色は褪せても団十郎』 | 明峰 | 天1☆7 |
| ◎『節穴のある羽子板や遠き過去』 | 白然 | 天1   |

### 席題2. 「新年会」

- |                   |    |      |
|-------------------|----|------|
| ◎『子の料理母の味つぐ新年会』   | 懂岳 | 天1☆5 |
| ◎『新年会酔いも程好し連れも好し』 | 傘吉 | 天1   |
| ◎『新年会きつといいことある予感』 | 月草 | 天1   |
| ◎『床の間に銚子を並べ新年会』   | 晶如 | 天1   |

### 席題3. 当季雑詠の自由題句

- |                    |         |    |
|--------------------|---------|----|
| ◎『朝市の白菜尻を並べたる』     | 多佳      | 天1 |
| ◎『一筆の俳句嬉しき賀状かな』    | 明峰      | 天1 |
| ◎『青空に合掌屋根のなが氷柱』    | 晶如      | 天1 |
| ◎『年あらた空澄みてあり足るを知る』 | 枯葉 (投句) | 天1 |
| ◎『歯固めの風習知らず歳重ね』    | 一光      | 天1 |
| ◎『赤バイク初日まぶしく街に散る』  | 清助 (投句) | 天1 |
| ◎『凧一点中天に舞う日本晴れ』    | 傘吉      | ☆6 |
- (道人の一句)

羽子板や似顔絵幅を利かせをり 住田道人

席題1. では、明峰さんの句「羽子板の色は褪せても団十郎」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。明峰さんの句は、いつもながら中七が絶妙でした。この句も中七の「色は褪せても」で、羽子板の歴史を暗示させ、下五の「団十郎」をピカリと輝か

せ、多くの選者の共感を獲得されました。見事でした。次に白然の句「節穴のある羽子板や遠き過去」が、天賞一つをいただきました。羽子板という席題に、戦後間もない小学校時代のもの悲しさが、表現できればと思いました。

席題2. では、体調を回復され、カムバックされた懂岳さんの句「子の料理母の味つぐ新年会」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。選者はこの句を読んだ瞬間、この新年会が、久しく続いている家族新年会であることを理解し、「円満なご家族に乾杯！」と、心の盃を高らかに挙げられたことでしょう。次に傘吉さんの句「新年会酔いも程好し連れも好し」も、天賞一つを獲得しました。この句は何といても、中七、下五の流れの良さというか、リズムの良さが、読者に快感を与え、下五の「連れも好し」で、ニコリと笑顔にさせてもらいました。次に、表彰初登場の月草さんの句「新年会きつといいことある予感」も、天賞一つを獲得しました。冒頭に掲げたように、不穏な空気を拭えない世界事情です。この句の中七、下五の「きつといいことある予感」で、パッと明るい気持ちにさせてもらいました。もう一つ、晶如さんの句「床の間に銚子を並べ新年会」も、天賞一つを獲得しました。この句が披露されて、晶如さんと判った瞬間、「えっ、男性の句かと思った！」と、声を上げた方がいらっしゃいました。句会の面白さは、こうしたところにもあります。そう言えば、若き合宿所生活時代、数名で部屋の周りをビール瓶で囲おうとしたことがあります。途中でダウンし、成功しませんでした。

席題3. 自由題句では、多佳さんの句「朝市の白菜尻を並べたる」が、天賞一つを獲得しました。この句は説明の必要はないでしょう。中七の「白菜尻を」が効いています。男性諸氏は皆さん、女性の白いお尻が頭に浮かび、続いて下五の「並べたる」を読み、あらぬことを想像したに違いありません。これまた「女性の句か！」と。次に明峰さんの句「一筆の俳句嬉しき賀状かな」が、天賞一つを獲得しました。この句も説明の必要はありませんね。自然に優しい気持ちにさせられます。見事なご配慮です。さらに晶如さんの句「青空に合掌屋根のなが氷柱」も、天賞一つを獲得しました。合掌造りと言えば、白川郷を思い浮かべます。そこに出来ている長い氷柱と青空の対比、昔からの日本風景が見えて来ます。選者の一票はそこに入りました。次に投句をされた枯葉さんの句「年あらた空澄みてあり足るを知る」も、天賞一つを獲得されました。選者は下五の「足るを知る」に、一票を投じたのでしょうか。そして大先輩であられる枯葉さんの句と判って、大満足をされたと思います。次に一光さんの句「歯固めの風習知らず歳重ね」も、天賞一つを獲得しました。上五の「歯固め」は新年の季語で、「齢を固めること、長命を願ってする新年の行事」と辞書にあります。齢を重ねているのにそれを知らなかったという作者の謙虚さに、選者の一票が投じられました。もう一句、投句の清助さんの句「赤バイク初日まぶしく街に散る」も、天賞一つを獲得しました。赤バイクが、年賀状を配達する郵便夫のバイクであったことが、今一つ伝わらなかったとの意見も出ておりました。下五の「街に散る」が判れば、もっと得票が伸びたのではないのでしょうか。最多得票賞（☆印）は、傘吉さんの句「凧一点中天に舞う日本晴れ」に輝きました。上五の「凧一点」と中七の「中天に舞う」のリズム感、それを下五の「日本晴れ」で結んだことが、見事なハーモニーとなって、選者の共感を得たのでしょうか。見事でした。多佳さんの天賞句を一票上回りました。

今日ご覧いただいたように、天賞句をいただいた方が12名、しかも天賞はそれぞれが一票という珍しい記録でした。結果的には皆さんの選句が分散したのですが、それだけ皆さんの力が伯仲してきたということでしょう。「道草」始まって以来の記録ではないでしょうか。教室でも全員の話題になっていました。この記録は、これからの私たちの俳句研鑽、切磋琢磨に強い影響力を持つのではないかと思います。お正月早々、楽しい句会になりました。

二次会は、先月と同じく居酒屋「魚や一丁」にお世話になりました。句会で提示された席題ではありませんが、二次会はまさしく私たち「道草」の新年会になりました。皆さんの話題は、本日の天賞句が分散したこと、句の持つ力が伯仲して来たこと、それだけ選句が難しくなってきたことなど、俳句のことが多かったようです。これからも充実した「道草」が期待できます。皆さん、もっともっと俳句を楽しみましょう。どうぞよろしく願いします。

白然記